

実践報告

札幌市立屯田北中学校

(1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくりに関する研究等」

- 支えあい、認め合う豊かな人間関係能力の育成

(2) 実践の内容

【実践①】学ぶ必然性を感得できるピア・サポート・プログラムの実践について

○ ねらい

ピア・サポート・プログラムを楽しみながら実施し、一定の変容が生徒に見られるようになってきているものの、学習した内容が定着し、これからの自分の生き方に有効であると感得できるようになるためには、学ぶ必然性を感じ、仲間と共有できるようにしていく必要があると考える。そこで学習時の導入を工夫し、課題意識を喚起することで学習の一層の定着を図ることを目的とする。

○ 学習内容

生徒の発達段階並びに学習時期を考慮しながら、各学年 10 回の実践を行う。

以下に本年度の題材名を掲載する。

1 学年	2 学年	3 学年
あいさつで名刺交換 ピア・サポートとは 質問しよう プラスの言葉とマイナスの言葉 プラスのストローク1 話の上手な聞き方1 すごろくトーキング プラスのストローク2 怒りの温度計 新しい仲間のために 1 年間の反省	ピア・サポートとは あいさつで座席表づくり 話の上手な聞き方2 うわさ話のわな 質問しよう キャリア 二者択一 すごろくトーキング どんな人に相談する？ プラスのストローク 上手な断り方 送別の合唱をつくる 1 年間の反省	ピア・サポートとは あいさつで名刺交換 エゴグラム1 エゴグラム2 対立の解消 プラスのストローク1 プラスのストローク2 すごろくトーキング キャリア 二者択一 受験期の不安と緊張に克つ！ 別れの花束 1 年間の反省

【実践②】人権について考える場の設定について

○ ねらい

アイヌ民族の文化、いじめ問題、障がい・福祉など幅広く人権について考える場を各学年の総合的な学習の時間、道徳で展開する。各学年で講師を招いて、講演を行うことにより人権や命の尊さ等に対して真摯に向き合い、考えることをねらいとする。

○ 学習内容

いじめを題材とした道徳を 2 学期に各学年で実施

命の尊さに関する講演を各学年で 1 回実施（交通事故被害者の方の講話など）障がい・福祉について 3 学年の総合的な学習の時間で学ぶ。

(3) 研究のまとめ

① 成果

- 仲間への思いやり、支えあう雰囲気、自己肯定感の高まり
各教科や道徳、総合的な学習の時間の中で命の尊さについて考える学習活動に取り組んでいるため、実施前の本校の状況と比較すると、学級全体が明るく穏やかな雰囲気になり、生徒指導が必要な問題行動は減少している。
- ピア・サポートに対する学ぶ姿勢の向上
3年間の道徳、総合的な学習の時間の中で、発達の段階に応じて内容を吟味しながら系統立てて学習を進めているため、教育課程として整ってきている。さらにアセスも用いることで学級指導や学年指導に有益であることを多くの教員が実感としてもつことができている。また、若い先生方が学級をつくっていく上で有益なものとなっている。そのための教師の研修体制は必要不可欠であるとする。

② 課題

- 教育課程におけるピア・サポート・プログラムの位置付けの在り方
本校では、道徳の時間の実践としてピア・サポート・プログラムを実施しているが、道徳の評価の在り方について研修を深める必要がある。本校の特色ある取組の一つとして、教育課程全体のバランス等を十分に考慮し、ピア・サポート・プログラムの位置付けについて検討していく必要がある。
- 異校種間連携の在り方
小中高等学校において連続した学びとなるよう実施していくことは有効であり、生徒の人間関係形成能力が高まっていくよう、系統性のある取組を継続していくことが望ましいと考える。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ピア・サポート・プログラムがもたらす効果
ピア・サポート・プログラムは認知心理学などに基いて自分のことをよりよく理解し、他者との関係も円滑にできるようにするものとしてつくられている。よって自分を知り、他者との関わりを学ぶことはこれからますます必要なものであるといえる。
- 人権について考えることの意義
人権について考えることは、自分を理解し、社会について学んでいくことだと考える。いじめられたことのある生徒、アイヌの方々、障がいのある方の問題を知らずに過ごし、他人事で考えている生徒はまだ多い。相手の気持ちを理解する上でも必要な学習であるとする。